

第3回境港市みんなでまちづくり推進会議録

日時：平成30年7月3日（火） 18：30～20：30

場所：市役所第一会議室

日程

1. 開 会
2. 今期取組テーマについての協議
4. 閉 会

出席者（敬称略）

（委員）

| | | | | | |
|------|------|------|-----|------|------|
| 渡部敏樹 | 遠藤恵子 | 松本幸永 | 徳尾勝 | 松田真二 | 松本信子 |
| 渡辺冬樹 | 遠藤緑 | 門脇京子 | 糸川諒 | 岩本和貴 | 足立勲 |

（アドバイザー）

每熊浩一

（事務局）

片岡直人（地域振興課企画係長） 渡部大樹（地域振興課企画係主事）

（傍聴者）

なし

欠席者

沼倉加奈子（地域振興課長）

<開会>

（会長）

皆さん、こんばんは。お疲れのところ、お集まりいただき、ありがとうございます。
これより平成30年度第3回目のみんなでまちづくり推進会議を開催いたします。
本日は、ご案内させていただいたように、島根大学法文学部准教授で、第3期から本推進会議のアドバイザーを務めていただいております每熊 浩一先生をお迎えして、今期の取組みテーマについて、話していきます。每熊先生、本日はご出席いただきありがとうございます。今期も引き続きよろしく申し上げます。

ではまず、事務局からお願いします。

（事務局）

前回欠席された委員さんとは初めてとなりますので、改めまして、4月から地域振興課に配属となりました片岡です。よろしくお願いします。なお、本日、地域振興課長が別の会議への出席と重なりまして、欠席となります。

(会長)

それでは、この後の進行を毎熊先生にお任せしたいと思います。毎熊先生よろしくお願いします。

<毎熊アドバイザーによるミニ講義>

(アドバイザー)

境港には10年以上前の「みんなでまちづくり条例」の策定のときからお世話になっています。そのほかにも、色んなところで仕事させてもらっていて、境港はとてもアットホームな印象があります…表面的なだけかもしれませんが。まあ、僕が知る限りではアットホームで、フレンドリーでここも好きな会議です。先ほども、新しい委員の方に挨拶をしたら、ゼミ生のおじさんがいたり、島根大学の大学院に通っている方がいたりと近いなあと感じているところです。よろしくお願いします。

さて、これから2年をかけて議論するテーマについて、これまで2度、みなさんで話し合ったということですが、今日はそのテーマを決めてしまおうと思っています。そのために、少し話題の提供をしたいと思います。流れとしては、これまで皆さんの議論の中で出たアイデアを僕の方で整理します。具体的には大きく4つのパターンに分けます。うまくいけば、「このパターンでいこう」となるかもしれませんが、なければ「全てのパターンで」ということになるかもしれませんし、出たとこ勝負です。ですので、その議論を受けて、グループワークの進め方もその場で考えていきます。うまくいかなければ、僕のせいではありません。皆さんのせいです。よろしくお願いします。

最終的には、3つくらいに分かれてグループワークをして、それぞれで案を出して、全体協議をして、「これだ!」というのが出れば良いなど。時間は20時半までということですが、早ければ早く終わります。終わらなければ、台風に巻き込まれます。困るのは松江から来ている私ですが、それを避けるために早く終わらせましょう。

では、今出ている案です。まず、事務局から出ている4つです。

①自助・共助・公助 ②市民活動 ③まちづくり ④条例の見直し

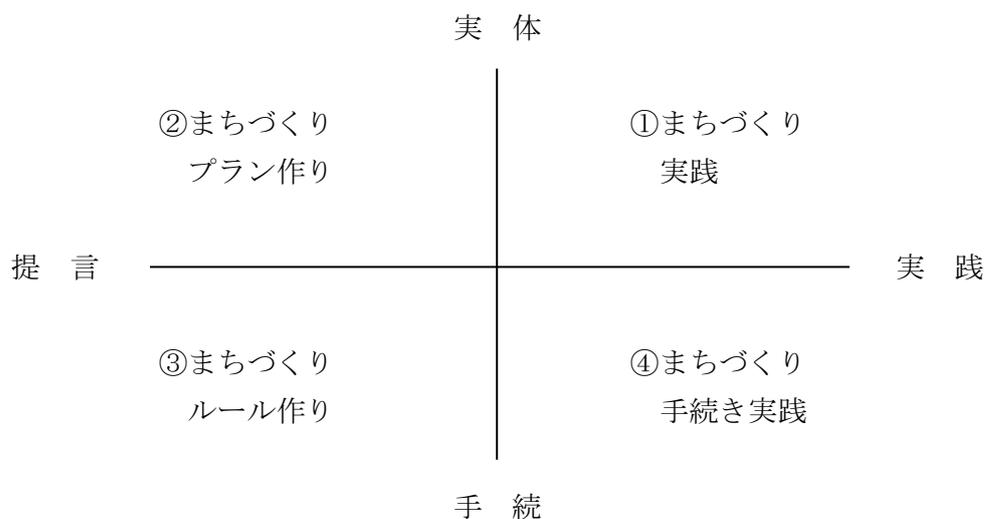
次に、事務局がこれまでの議論から抽出した4つです。

①地域資源の掘り起し ②オリンピックに絡めたもの ③学生との連携
④稼ぐ地域

まあ、ほかにもキーワードは出ていましたけども、この辺りに集約できるのかなあと。で、これを提示されて、今度の会議どうしましょうと振られて、正直「どうしよう」と。すごくバラバラで、このままじゃ決まらないんじゃないかと1週間くらい途方にくれました。それでも、うまくいくかは分かりませんが、まずは整理してみようと思いました。

まちづくりの議論をするときに二つの関心があります。こちらの図が何か分かりますか？境港市の総合計画です。境港市をより良い街にするための施策が書いてあります。実際に境港市が事業として行っていることでもあります。多くの人がこういった実体に基づいたまちづくりに関心を持っています。これが一つ。もう一つは、行政に任せっきりでなく、境港市民みんなでやろうというときに、意見を届ける制度を作ろうとか、条例が必要だというのが、手続きに関する関心です。一般的にここに関心を持つ人はあまりいません。まちづくりについて、議論すると、「観光やりたい・産業やりたい」という実体について、関心を持つ人が多いですが、とりあえず、関心は二つあるということを押さえていただきたいと思います。

次に、こういった会議の落としどころですが、落としどころも二つあります。こちらは前回の委員の皆さまの報告書です。結果をまとめられて、提言をされています。これがオーソドックスなやり方です。もう一つは、提言でなく、自分たちから行動することです。うちの学生がポリレンジャーという政治に係わるサークルを作っていますが、選挙の際に、有権者に情報提供しようということでホームページの運営をしています。若者の促進を促すために自ら行動しているわけです。ですので、こういう委員会がホームページを作るというのもダメじゃないです。それから、昨年、提案させていただきましたけど、この委員会で高校へ行って、模擬選挙を行って、それを参考にしながら、提言をするという形もあります。ですので、落としどころとして、大きく分けて、提言としてまとめるパターンと自分たちで実際に行動するパターンがあります。さらに、それらを組み合わせた形があり、みなさんに配っているレジュメの真ん中の図です。



①だと、例えば、水木しげるロードで着ぐるみを来て、観光客をおもてなししてみる。実体と実践ですよ。②だと、そのための計画を作る。例えば、境港の観光を良くするための提案を10個作り、市役所や観光協会のようなところに提言する。③だと、まさに「みんなでまちづくり条例」です。この条例をもう少し良いものにするため、条文を改定して、こういったことを加えるべきじゃないかというルール作りを考えていく。事務局のあげた案はこれだったのではないのでしょうか。④は、自分たちで実際にルールを作る過程で、どんなものにするか確認するため、実践してみる。昨年度の若者を呼んでのワークショップがそうですよね。若者がどれくらい参加するかよく分からないので、実際に若者に対してPRして、参加の機会を設けた。つまり、若者の参加を進めるための手続きをやったということです。その結果、提言もしましたね。なので、全てが4つに分かれるわけでもないです。セットということもあるでしょう。それで、先ほど、言ったように、事務局の狙いは③だったと思います。「みんなでまちづくり条例」ができたときに、まちづくりをもっとみんなで進めていくための手続きをより良くする方法をみんなでがんばりましょうよ、と。例えば、自助・共助・公助についても、自治会・町内会に出かけていくというより、自治会・町内会に人がもっと参加するような仕組み・ルールを考えようじゃないかという提案だったと思います。あるいは、観光のまちづくりだとか、産業振興ということを否定しているわけでもなくて、そのための案でも良いですよということでもあると思います。その辺り、事務局はどうですかね。

(事務局)

この会で何ができるかというところで、12名のメンバーではなかなか大きいことはできないかと思います。毎熊先生が言われたように、どこかに実践してもらうための調査や実践してもらうための提言というのが、第5期もそうでしたが、この会でできることかなと思っています。

(アドバイザー)

まあ、委員会ってのは大体そんな感じですが、ただ、そんなんじゃ面白くないっていう意見があれば「実践」ということもあるかもしれない。で、それを今日皆さんで考えていこうということです。そのためのヒントとして、事務局の案は置いていて、⑤～⑧の提案について、僕が感じたことを少し紹介できたらなと思います。それで、皆さんの提案がそれぞれの類型かというのがありますが、別にどこに該当しようが関係ないです。あくまで議論のベースとしてこの4つがあるというだけです。

まず、「地域資源の掘り出し」ですが、よく言われるのがマップ作りです。「地域資源マップ」。結構色んな分野であって、グーグルで調べたらたくさん出てきます。これは「奈良市地域資源マップ」です。表面には地図があり、裏面には印のところにナントカセンターがあるとか、高齢者が集まるクラブがあるとかが記載してあります。これは福祉に関するマップですが、福祉以外にも観光とかでもありますね。地域資源を調べて、

マップに落とし込むというのはよくありますので、そういうことをやっていっても良いかと思います。マップではありませんけど、松江市では「松江ものづくり.net」というサイトを作っています。ここでいう資源は松江市の中小企業です。松江の中小企業はこんなことができます、というのが調べられるわけです。例えば、しょうゆに関わって何か開発してみたいなと思ったら、サイト内検索で「しょうゆ」と入れて、企業がヒットすると。そうすると、じゃあ今度ここと相談してみようとなるわけです。ですので、境港の産業振興のために、こういう中小企業を調べて、マップに落とし込むというのは良いかもしれませんね。また、マップにはなっていませんが、境港市は観光振興プランというのがあります。見ると、「境港の観光資源119項目」というのがあります。カニラーメン、イカ釣り、地酒…たくさんあります。これを元に、新規アイデア素案というのを作って「水木しげる記念館のリニューアル」とかをあげています。もうこれはされました？

(事務局)

はい。

(アドバイザー)

ということで、実際にやっている。まあ、観光に関しては境港は先を行っていると思いますけど、だから、こういう形で観光資源を掘り起こして、それをどう強化していくかを考えていくというのが一つのやり方だと思います。ただ、これは観光系の委員会とかがあって、そこでやっていると思われるので、それとは違う差異化をしていく必要があるかと思います。

続いて、「オリンピックに絡めたもの」です。パッと思いついたのが、ホストタウンです。オリンピックに来た外国の選手の練習場所にしたり、キャンプしてもらったりですよ。定義としては、「スポーツ立国、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から、参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る地方公共団体を「ホストタウン」と呼ぶそうです。鳥取県では、鳥取市—ジャマイカだけです。島根県は3つあります。松江はアイルランド、奥出雲がインド、邑南町がフィンランド。奥出雲は初めて知りました。邑南町は昨年テレビで知りました。NHKのおはよう日本だったと思いますが、「ホストタウンでまちの未来を」ということで邑南町の町長さんが話しています。面白いのが、町長さんこう仰られています「非常に大きな転機。絶好のチャンスとして捉えている。フィンランドに学ぶべき点が相当ある」これはスポーツだけでないというわけです。ここに出ています「町がフィンランドを選んだ最大の狙いは、交流を通じて、手厚い福祉制度を学ぶことにあります」すごい発想ですよ。スポーツに留まらず、先進的な取組みを学ぼうじゃないかと。僕は詳しくありませんが、ネウボラですか。子どもの面倒を見る仕組みがあるそうです。そういうところを学ぶために、保健師を派遣したりして、オリンピックを手掛かりに交流をして、地

域を元気にすることに繋げていったという。こういった狙いを持って、ホストタウンの登録を目指して、どうしたら良いかということでも良いかと思えます。

続いて、「学生との連携」。つい最近、新聞に載っていましたが、島大の学生が元々あった家を、雲南で島大の拠点にもなり、雲南のまちづくりの拠点にもなるようなものにリノベーションして、畑なんかと一緒に作ったと。ですので、境港にも空き家があるので、「ここで何かやってくれ」と言えば、学生が何かやってくれるかもしれません。ただ、雲南というところは、かなり周到に色んなことをやっています。例えば、UCC。一般的には上島コーヒーですが、雲南では、「雲南コミュニティキャンパス」としてやっています。いわば、雲南が大学生を呼んで、雲南全体をキャンパスとして学んでもらうという取組みです。これを5年くらい続けています。ここから育っていった若者が色んな活動をしていたりもします。それから、うちのゼミでも松江に空き家があるというので、私設図書館というのをやりました。通常、図書館では食べたり、喋ったりできないので、それができて、図書館に置いていないような本を集めた空間をゼミ生と一緒に作りました。うまいこといったかということと反省の方が多いですが、これを一年やりました。ですので、学生と実験的に何かをするというのはできないことはないですね。

それともう一つ、ゼミで関わったことなんですけど、境港市議会基本条例というのがあるんですが、この条例策定に僕がアドバイザーで入っていたんですが、ゼミ生は議員さんを相手にワークショップをしました。また、僕の授業に議員さん7人が来て、生徒100人とワークショップしたこともありますし、僕らが勝手に境港で境港市民を相手に「みなさん意見を届けなくて良いのですか」ということでワークショップをしたこともありました。なので、空き家に関わらず、テーマについて学生と議論するとか、島大生じゃなくても、境港の高校生を集めて議論するとか、そういうことはできるかと思えます。

最後に「稼ぐ地域」。これがまた難題でして、稼げたら大学の教員なんてやってないよという。まあ、大学の教員らしく本を紐解こうと。そういえば何年か前に読んだなあという本が思い浮かびました。木下 斉さんの『稼ぐまちが地方を変える 誰も言わなかった10の鉄則 (NHK 出版新書)』です。10の鉄則について、僕から説明はしませんが、例えば、境港市を稼ぐ地域にするために、色んなバックグラウンド・経験を持った人たちがいますので、その人たちから話を聞いて、境港市流の10の鉄則を作ってみるというのをテーマにしてみるとか。

それから、また手前味噌になりますが、うちのゼミで松江市に対して、松江の中小企業を元気にするためにこんなことをしたらどうかという提言をさせていただきました。うちのゼミでも5年くらい中小企業の経営者と一緒に研究会をやっていたので、アンケートを取ってみたいとかして、分析して、ちょうど、市長選があるところだったので、どうぞ公約に入れて実現してくださいと言って、提言をしました。中小企業に焦点を当てて、中小企業を元気にするためにどうすればいいかというのを考えても良いかもしれません。ただ、これはそういう分野の会議が別にあるのかもしれませんが。まあ、色々テ

一マはありますが、提言をまとめるという考え方で行けばよいかと思います。

それから、最後になります。僕は地ビールが大好きです。クラフトビールっていうタイプのビールです。『石見地ビール』こちら飲んだことある方いらっしゃいますか。ない。僕もまだありません。では、この会社がどうやってできたかご存知の方いらっしゃいますか。(株)石見麦酒という江津の会社です。知りませんか。では、「ゴウコン」は知っていますか？皆さんもよく行かれましたかもしれませんが。まあ、その合コンではありません。「江津ビジネスプランコンテスト」のことを「Go-con」というそうです。江津が5年くらい前からやっていて、100万円用意して、全国からビジネスプランを持ってきてくださいということでやっています。それで、お金だけじゃないんですね。商工会議所や業界がバックアップするんです。それで、地ビールを作りたいと言って、確か大賞を獲ったはずです。ホームページには今までの受賞者が載っています。去年は、羊の牧場をやりたい。一去年は、海外からの人を呼ぼうということで、受け入れるゲストハウスをやりたいというものでした。ですので、例えば、稼ぐ地域にするために、「江コン」をやってみて、その仕組みを境港市でやってはどうですかという提言をするとか、いいかもしれないですね。

ということで、かなり雑駁な話になりましたけども、僕が感じたことを紹介させていただきました。で、このあと、グループワークをやってもらいますが、4つの大きなパターンがあるわけですけど、どうでしょうかね。事務局はこの③のまちづくりの手続き的な提言をやってみてはということでしたけども、これが一番退屈です。一番楽しいのは①まちづくり実践です。ただ、時間は余計かかりますし、お金もかかるかもしれません。ということで、どれに絞ってやりましょうかということですが、4つ全て視野に入れてやろうということでしたら、それでも良いです。まあ、今のところで何か質問はありますか。

(委員)

雲南の取組みがありましたが、これははこういった委員会からの発信があったのでしょうか。それとも、市からの発信だったのでしょうか。

(アドバイザー)

市からですね。それと、雲南は地域自主組織があって、合併のときに、そこが中心となってまちづくりをしていこうという方針がありましたので、市と地域自主組織、それからNPO法人の「おっちラボ」が若者を巻き込んだりして、新たにビジネスが起きたり、色んな動きが起きています。僕は総合計画の評価委員会の委員をやっていますが、ほとんど事務局から提案が出てきて、それについて議論するような感じですよ。ですから、境港市の事務局が皆さんから見て、あまり頼りがいがないということがあれば、皆さんが提言をしていただくと良いかもしれません。

(委員)

雲南の方は市自体が力を入れているということですね。

(アドバイザー)

無茶苦茶力を入れています。それこそ、手続きに関する事で、「雲南チャレンジ」というのをやっていて、地域自主組織なんかの高齢者の方がやっているチャレンジ、若者がやっているチャレンジ、そして、子どもたちも勉強だけでなく、夢を探して地域に愛着を持ってもらうためのチャレンジ、という3つのチャレンジを中心としたまちづくりをしようとずっと取り組んでいます。それで、今進めているのが、チャレンジを正当化するために条例を作ろうとしています。会議では、今さら条例なんか要らないという人や条例を作ってしっかりバックアップしようという人もいますが、そういう整備をしようということも含めて、すごい力を入れようですね。

(委員)

私のNPOの理事も一人、奥出雲のほうに出向していますが、奥出雲もすごい力を入れていると聞いています。

(アドバイザー)

境港市がどうかは置いといて、雲南も奥出雲もものすごい危機感を持っていますよね。そこがこういう動きに繋がっているんじゃないかなと思いますよね。それから、地域の若者も市の職員も楽しんでやっていますよね。全員ではないですけど。地域振興関係の職員さんも元気にやっていますね。しんどいはしんどいと思いますが。

(委員)

その辺りは、中山間地との危機感の違いがあるんですかね。

(アドバイザー)

人口を出雲や松江に取られてきていますから、相当危機感はあるんでしょうね。

では、いかがですかね。とりあえず、4つとも視野に入れて、やってみましょうか。実践からまちづくりのルールを作るということもあるかもしれませんから。今日はざっくりしたテーマを決めてしまって、落としどころも探りながら、やっていくと。それでいいでしょうかね。

(委員)

やはり、我々自身が視察に行ったりとかした上で、ディスカッションをしないとしょうがないですね。一生懸命考えて作った条例ですけど、10年間何をしていたんだろうというところもあります。先進地があるなら、実際に視察でも行って、ルール作りに

生かすというのもありだと思います。

(アドバイザー)

そうですね。基本的なスタートは8つ案をあげていますが、そこから広げていっても良いかと思います。で、ワークショップですが、事務局は2つに分かれてと考えていたみたいですが、3つでも良いかと思います。どちらが話しやすいですかね。

(委員)

人数が少ない方が話しやすいかもしれません。

(アドバイザー)

3つでやってみましょうか。それで難しければ、2つにしましょう。事務局や僕も回りますので。では、模造紙に付箋で「こんなことやりたい」というのを書いてもらって貼ってもらっても結構ですし、模造紙に直接でも好きにやってもらえば良いです。その際に、例えば「学生との連携」であれば、島大に在学する委員にビラを配ってもらうとか、最終的には「学生と連携するための提案」を学長に届けるといった、どのように進めていくかというのも書いていただければと思います。そういうイメージがあればこのテーマでいけそうだなというのも分かるかと思います。それで、一つに絞るのが難しいとすれば、第3位くらいまで提示してもらえばいいかと思います。3つの班が同じものを1位に選んでいれば早いですがね。では、やってみましょうか。

※3つに分かれてグループディスカッション

(アドバイザー)

それでは、それぞれのグループで出た意見を発表してもらいましょうか。

(委員)

こちらの班はたまたま4人も新しく委員になったメンバーになりまして、みんなきょとんという感じで話が進みました。そこで、特定のテーマというより、まず私たちが感じたことは、雲南にしても、他の拠点作りにしても、「大学生」というのは一つ鍵かなと感じました。しかし、残念なことに境港市には大学もないし、短大も専門学校もありません。ですので、境港の若い力というのは高校生になるかと思います。そこで、テーマの話をするのにあたり、高校生を呼んで、私達と一緒にワークショップなどをして、そこで色々なことを生み出していければいいかなと。それが学生たちの成長にも繋がるし、もちろん、私達の成長にも繋がります。ですので、8つのテーマにはないですけど、そういった場を作るというのが第一ではないかとおこのグループでは話しました。

(アドバイザー)

それはここで取り組むテーマを決めるために高校生と一緒にやるということですか。何のテーマでもいいから、高校生を巻き込む場を作るということですか。

(委員)

そうですね。テーマというより、まずは、高校生を巻き込むことが必要ではないかと。

(アドバイザー)

分かりました。では、続いてお願いします。

(会長)

市民の活動をコーディネートし、企画・実践するまちづくり会社というような団体があってほしい。それぞれの団体がとても頑張っているんですけど、一体的なものがない。ネーミングについても親しみが持てるもの。課の名前も市民交流センターについてもそうです。それから、市の施設建設にあたって、市民がもっと関わられるようにしてほしい。それから、空き家や耕作放棄地の解消。で、そういったことを誰がやるのか。やりたい人を、小学校区であれば、公民館が取りまとめる、市全体であれば市役所か、このまちづくり会社になるのではないかと、そういうふうに思いました。

(アドバイザー)

市民活動を繋ぐ「中間支援組織」ということですね。先ほど、雲南の話で出した「おっちらボ」もそうですね。おっちらボ自体も色んな活動をしていますけど、他の団体の活動を支援したり、市と繋いだりをしていて、やはり、そういうキーとなる団体があると大きいですね。そういった団体を育てるためにはどうするか、というのも良いかもしれませんね。

(委員)

すごい活動団体はいっぱいいるんですけど、それをまとめるところがないので、個々の活動になってしまっています。これをまとめるのもっとすごい力が出るんじゃないかと思っています。

(アドバイザー)

「会社」という言葉が使われたのは、自ら稼いで、持続可能な活動をするということですかね。

(委員)

法人ではありません。ただ、持続可能な活動をしていくために「会社」という言葉を使いました。

(アドバイザー)

分かりました。続いてお願いします。

(委員)

境港市には大学がなく、どうしても若者が出て行ってしまうため、まず、大学誘致が必要です。特に、水産関係の学部で、魚の関心に興味のある若者を呼び込む。また、漁師の方々の法人化、漁師を守る組織を作って、全国から漁師を呼び込む。それから、高校生に地域に愛着を持ってもらうため、高校生サークルを作る。そうして、若者が元気になれば、3世代で助け合って、町も元気になるのではないかと思います。

(アドバイザー)

色々出てきました。「さかな」というのが、キーワードですかね。「さかな」を通じて、学びの場を作ったり、高校生を巻き込んだり、お金を稼いだり、ということですね。

さて、どうしましょうか。今の発表から、全部盛り込めていないかもしれませんが、キーとなる言葉をまとめてみました。「高校生(との場)」「学びの場」「拠点」「コーディネーター」「中間支援組織」「魚で稼ぐ」「漁師を法人化」「3世代」…。高校生というのは二つのグループで出ていたので、何等かの形で巻き込めたら良いかと思います。「大学の誘致」というのは議論するのは難しいかもしれませんね。「学びの場」というのも二つの班で出ましたね。何か繋がりそうなものはありませんか。これとこれとこれ繋がって、こういうテーマになって、これならみんなで一生懸命考えていけそうなのがないですかね。「高校生」というのは直接高校生をどうのこうのというのではなくて、議論の過程で巻き込んでいこうというような感じでしたね。ですので、テーマがどれに決まってもプロセスでできそうな感じですね。「中間支援組織」と「コーディネーター」は似たような感じですね。個人的には、色んな団体、ボランティア団体・NPO・企業、そういった活動している団体をうまく繋いでいって、相乗的に効果が出ていくような仕組みがあると、いいのかなと思います。それを漠然とやっていくのか、今回出てきた「さかな」を核とした繋がりを考えていくとか。

(委員)

魚も養殖の研究だとか、市内の企業同士は連携を取っているかもしれないですけど、一つ起業でもできれば、こちらに住みついてくれる人も出てくるんじゃないかという気もするんですけどね。

(会長)

漁業の大学校を作るとか。

(アドバイザー)

農業大学校は聞きますが、漁業の大学校というのはあるんでしょうか。ところで、こっちの方向に行ってもいいんですか。一つの題材としてはいいとは思いますが。

(事務局)

漁業だけについてというのは、ちょっと…。

(委員)

Iターンが呼べればいいんですけどね。農業でも漁業でも受け入れる団体がしっかりしていれば、若い人を呼べるかと思います。

(アドバイザー)

Iターン・Uターンの一つの呼び込みとして、漁業というのはアリかもしれません。総合戦略と被ってきませんか。

(委員)

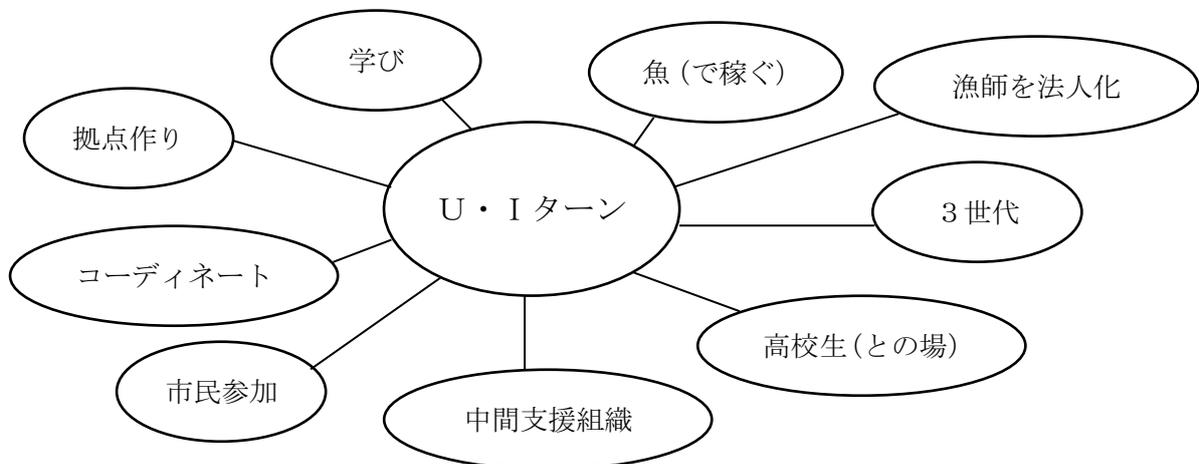
総合戦略は国との絡みもあるので、まちづくりとはまた違うような印象です。

(アドバイザー)

それでは、Iターン・Uターンを増やせるようなまちづくりをここで考えていきましょうか。特に、高校生を巻き込んで。

(委員)

確認ですが、「さかな」ではなくて、Iターン・Uターンを呼び込む具体的な方法として、「さかな」とか「農業」とかいろんなことで話し合うということですね。鳥取市なんかは海女さんをやってくれる人には補助金を出すというのをやっています。



(アドバイザー)

何となく、見えましたか。U・Iターンを進めていくためのまちづくりについて議論する。食うための手段を考えたり、それを繋げていくための団体や仕組みを作ってみたり、その過程で高校生と話してみたり、巻き込んで、実際に1日ビジネスをさせるとか、そういう企画をここでするとか、その中で、大学誘致の話も絡んでくるかもしれないし、そんな感じですか。

(事務局)

最初はバラバラのテーマが出たなと思っていましたが、繋がってきた感がありますよね。あとは、提言とするのか、実践するのかはまた考えていけないとは思いますが。

(アドバイザー)

ここは「みんなでまちづくり推進会議」でしたね。“みんなで”をちょっと広げていくような感じですね。高校生や大学生なんかとワークショップもしてみて。例えば、市外に出ていく人も多いから、どうしたら市内に残るかとかって話を率直に聞いてみましようか。とっかかりとして、まず高校生ということで。

(委員)

境高校のPTA会長してますので、話はなんぼでも。

(アドバイザー)

もう決まりじゃないですか。時期的に良い時期があると思いますので、そこはまた調整して。とりあえず、テーマとして、名前はまた考えるとして、「U・Iターンを進めていくためのみんなのまちづくり」というようなことを2年間取り組んでいくということで良いですかね。

(拍手)

(アドバイザー)

台風が来る前に決まりました。ありがとうございます。会長にお返しします。

(会長)

毎熊先生、ありがとうございます。大分、輪郭が出てきまして、今後、「こんなやり方はどうだろうか」というのがあれば事務局にお知らせいただけたらと思います。では、事務局から、そのほかにありますか。

(事務局)

1点、お知らせです。高校生との会議に先立ちまして、補助金の審査を予定しています。現在、何件か問い合わせもいただいておりますので、申請がありましたら、また書類審査をお願いしたいと思います。

(アドバイザー)

余計な話ですけど、補助金も本当にいるかどうか是非ここで考えてみていただきたいと思います。例えば、高校生にもっと活動してもらうために高校生に補助金を出そうということになって、お金がないということになれば、今までの補助金いらなかったじゃないかという話にもなるかもしれません。ここでの仕事だけに、是非そういう視点でも補助金の審査をしていただければと思います。

(会長)

それでは、以上をもちまして、第3回のみんなでまちづくり推進会議を終了します。委員の皆様、長時間にわたってご協議いただき、ありがとうございました。

<閉会>